

# 満開のナスヒオウギアヤメ



写真は、一ツ縦地区に咲くナスヒオウギアヤメです。  
 ナスヒオウギアヤメは、昭和天皇がご研究なされ、命名発表されたもので、母種のヒオウギアヤメに比べて花弁や草丈等が大型で、種子を結ばない特徴があります。  
 開花時期は5月下旬から6月上旬。機会がありましたら足を運んでみてはいかがでしょうか。

# 3代目ゆめな 卒業



5月4日、文化センターで黒田原のマスコットキャラクター「クロロとゆめな」の3代目ゆめなの卒業式が行われました。  
 約3年間務めた3代目ゆめなに就任する前は、ゆめなの妹役「ゆめの」を2年間務めており、平成29年4月からの約5年間、さまざまなイベントで町の魅力を発信しながら、地域を盛り上げてきました。  
 当日は、地元の子もたちをはじめ、とちまるくんなどのご当地キャラ5体が駆け付け、新たな門出を祝いました。

# 公立保育園で完全給食開始!!

これまで、公立保育園の3~5歳児の給食は、副食などのおかずのみを園が提供し、主食のご飯などは家庭から持参していましたが、4月から全年齢で完全給食となりました。これにより、年間として温かいご飯を食べることができ、さらに衛生管理の問題も解消することができました。



この日のメニューは、カレーうどん、松風焼き、ブロッコリーの香り和え、バナナでした。

年長組の高久愛<sup>はな</sup>さんは「お善がとまらない!!」と大きなお口でもりもり食べました。



# お米ってどうやってできるの? 田んぼから学ぶ多くのこと



5月9日、那須地方農業士会の女性農業士5人による田んぼのはたらきをテーマにした紙芝居とかかるた取りゲームが、黒田原小3年生を対象に行われました。この紙芝居は栃木県女性農業士会で手作りのものです。田んぼはお米を作るだけでなく、小さなダム機能や生き物の住処であること、そしてお米ができるまでにたくさんの手間がかかっていることを学びました。



11日、紙芝居で学んだことを胸に、黒田原小学校の3年生42人が田植えを体験しました。地域コーディネーターの高久実さんをはじめ、地域のボランティアの指導のもと、水の入った田んぼに入り、ゆっくりと丁寧に稲を植えました。

女性農業士の磯由起子さんは「お米の大切さを知り、もっともお米を食べてね」と話しました。

最初は、泥に足を奪われ悪戦苦闘していましたが、すぐにコツを掴み、手際よく苗を植えることができるようになりました。

高久遥太<sup>ようた</sup>さんは「知らないことばかりで楽しかった」と話しました。

田植えを終え薄井篤史さんは、「初めて田植えをして、こうやってお米ができるとは知らなかった」とキラキラした目で話しました。